



실리콘밸리 AI 영화제 SVAIFF KOREA 2026
Silicon Valley AI Film Festival Korea 2026



글로벌 AIDOL 어워즈 2026 - 사전 스테이지
Global AIDOL Award 2026 - Showcase

SVAIFF KOREA 2026 プレスリリースシリーズ ㊦ めざす道 2026.10.24

授賞式のあとも続いていく道 — SVAIFF KOREA 2026がめざす道

- 交流・展示・商業化、イベントのその先へ続く道を最初から一緒に設計
- 受賞作50本がシリコンバレーのグローバル決勝へ、米国アーバインの NOVARTA アートセンター特別展示と CES 2027 での連続上映
- 参加者負担ゼロの原則...利益ではなく、文化コンテンツが育つ土台を広げる公益型イベント

映画祭は一日で終わる。しかしクリエイターにとって、
受賞は終わりではなく始まりでなければならない。
賞を受けた作品がより多くの観客と出会い、
賞を受けたクリエイターが次の作品へと進んでいけること。SVAIFF KOREA 2026は、
まさにこの部分、授賞式が終わったあとの道を最初から一緒に設計した。

国内で開かれる映画祭が海外と実質的につながる機会は少なく、うまく実現するのも難しい。
海外進出を語るイベントは多いが、実際に作品が海を越えて観客と出会うケースは多くない。
今回の映画祭はその道を交流、展示、商業化の三つに分け、一歩ずつ現実のものにしていく計画を立てた。



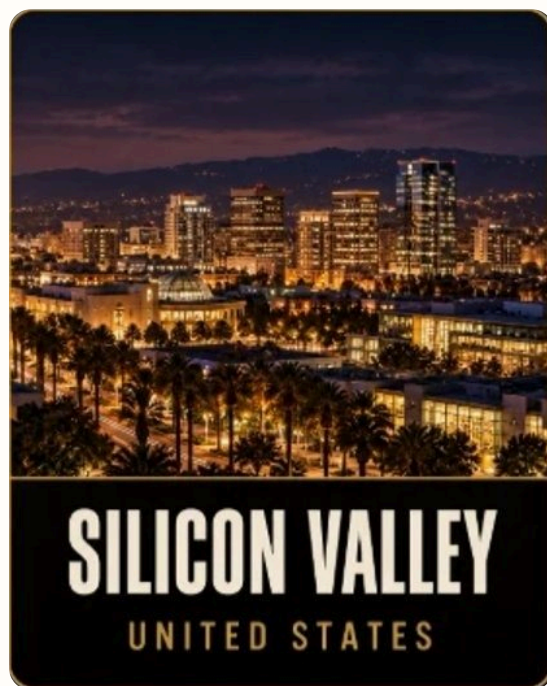
ソウルから世界へ——SVAIFFグローバルネットワーク

SVAIFF KOREA 2026 組織委員会・AI生成画像

1. 交流——シリコンバレーのグローバル決勝

一つ目の道は交流だ。SVAIFFは、シリコンバレー、ロサンゼルス、ボストン、ソウル、北京、上海、ニューヨーク、ロンドン、パリ、深圳など10の都市・地域を結ぶグローバルネットワークとして運営されている。韓国大会の受賞作50本は、2027年1月に米国シリコンバレーで開かれるグローバル決勝に進出し、国際舞台へとつながる。

賞金受賞19本は決勝に必ず出品し、決勝の審査料（1作品99ドル）は主催者側が代わりに支払う。決勝進出奨励賞31本は出品するかどうかを自ら決め、出品する場合の審査料は本人負担となる。受賞作が決勝のどの部門に出品されるかは、主催者側の審査委員会がグローバルの表彰項目に合わせて決める。



2027年1月にグローバル決勝が開かれるシリコン/
SVAIFF KOREA 2026 組織委員会・AI生成画像

グローバル決勝は協力関係にある別の主催者（Star Alliance Culture Inc.）が独立して運営し、決勝の審査・日程・条件は決勝側が定める。韓国大会は決勝と手を組みつつ、それぞれの舞台を独立して運営する。韓国で認められた作品が、世界の審査員と観客の前でふたたび評価される仕組みだ。

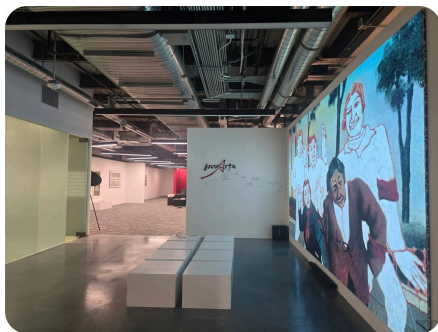
2. 展示——アーバインのアートセンターで、CESの画面で

二つ目の道は展示だ。映画祭は受賞作を、米国カリフォルニア州アーバインの NOVARTA アートセンターでの特別展示と、世界最大のIT見本市 CES 2027 の E-Park AI ブースでの連続上映で紹介する計画だ。韓国のAIクリエイターがつくった作品が、米国現地の展示会場と世界のテクノロジー産業のただ中で観客と出会うことになる。



米国カリフォルニア州アーバインの NOVARTA アートセンター展示空間
NOVARTA アートセンター提供

NOVARTA アートセンターは広い展示空間と大型メディアウォールを備え、絵画や工芸、映像作品をあわせて紹介できる。映像作品がスクリーンの外に出て美術館の壁や空間と出会う体験は、AI映画が映画館を越えてひとつの芸術作品として受け入れられるきっかけになりうる。



NOVARTA
アートセンターの大型メディアウォール
NOVARTA アートセンター提供



NOVARTA アートセンターのギャラリー
NOVARTA アートセンター提供



NOVARTA
アートセンターのメディア展示
NOVARTA アートセンター提供

展示の道は受賞者だけに開かれているわけではない。映画祭は、特別招待作家である Wonjeong Rae-heon Park 名匠とメディアアーティスト Young-hoon Jeong の海外展示の機会もあわせて探っていく。伝統の手と先端の目が、ソウルの舞台を越えて海外の観客とも向き合えるようにするということだ。



Rae-heon Park 名匠の壺——特別招待作家の海外展示の機会もあわせて探る
作家提供

3. 商業化——作品が次の仕事へつながるように

三つ目の道は商業化だ。よい作品が一度の上映で終わらず、クリエイターが次の仕事を続けていけるよう、協業と流通の機会をつなぐことだ。受賞作には、CESでの上映、アートセンターでの展示、Meta Oriental インキュベーション候補への推薦などの特典がある。

映画祭は作品とクリエイターを産業の現場のパートナーとつなぎ、創作が仕事に、仕事が次の創作へとつながる流れをつくっていかうとしている。

4. グローバルAI IDOLアワード、2027年へ

同じ日に開かれるグローバルAI IDOLアワード2026は、シリコンバレーAI映画祭と手を組み韓国で独自に企画したイベントだ。今年は2027年の本格開催に先立つプレショーケースとして開かれる。AIから生まれたアイドルと関連コンテンツを観客と業界に初めて紹介し、その反響と経験をもとに来年の本番の舞台を準備する。Best AI Idol 1名に賞金350万ウォンを授与する。



グローバルAI IDOLアワード——2027年の本格開催に向けて
SVAIFF KOREA 2026 組織委員会

5. 利益ではなく、土台を広げること

これらすべての道の土台には、ひとつの原則がある。参加者負担ゼロの原則だ。応募者、参加者、観客から、応募料、参加費、審査料、登録料、入場料を受け取らない。観覧は無料で、受賞者など招待を受けた人に先に席を割り当て、残りの席は無料の事前登録で受け付ける。有料席と会場での物品販売もない。

賞金と運営費は主催者側の予算と後援・協賛でまかない、後援・協賛は審査に関与しない。とくに、イベントの後援者としても名乗りを上げたJI LIN共同組織委員長の後援が、この公益型の運営に力を添えた。賞金を受ける受賞作19本の決勝審査料を主催者側が負担できるのも、そのおかげだ。

イベントの目的は商業的な利益ではない。文化コンテンツを育て、その上で今後の産業が育つ土台を広げることだ。費用のために挑戦をためらうクリエイターがいないように、

そしてより多くの人がAI映画をじかに見て体験できるように。



皆が同じ月を見上げていたあの心で
SVAIFF KOREA 2026 組織委員会・AI生成画像

6. 人が物語の主人であり続ける道

結局、この映画祭がめざす道はひとつの文章に集約される。AIがどれほど発展しても、物語の主人は人だということ。今回の映画祭が完成作とともに創作過程を審査し、伝統芸術家とメディアアーティストを特別招待作家に迎えたのも同じ理由からだ。ソウルで始まったこの小さな一歩が、韓国のAIクリエイターが世界と出会う長く続く道になることを、映画祭は願っている。

応募は10月25日から11月25日まで公式ウェブサイト（korea.svaiff.com）で受け付け、応募と観覧はいずれも無料だ。

ひと目でわかる概要

交流	韓国大会の受賞作50本が2027年1月のシリコンバレー・グローバル決勝に進出（賞金受賞19本は審査料を主催者側が負担、決勝進出奨励賞31本は自己負担）
展示	米国アーバイン NOVARTA アートセンター特別展示、CES 2027 E-Park AI ブースでの連続上映、特別招待作家の海外展示の機会を模索
商業化	CESでの上映、アートセンターでの展示、Meta Oriental インキュベーション候補への推薦などの受賞作特典、協業・流通の橋渡し
AI IDOL	グローバルAI IDOLアワード2026プレショーケース → 2027年に本格開催
運営原則	参加者負担ゼロ、応募・観覧無料、後援・協賛は審査に関与しない
イベント	2026年12月17日（木）ソウル三成洞 Gabin Art Hall
公式ウェブサイト	korea.svaiff.com
取材のお問い合わせ	SVAIFF KOREA 2026 事務局・ help@svaiffkorea.com

#SVAIFFKOREA2026 #グローバルAIIDOLアワード2026 #AI映画祭 #シリコンバレーグローバル決勝

#NOVARTAアートセンター #CES2027 #AIコンテンツ産業 #海外進出 #公益型イベント

#応募無料 #生成AI #AI映画

取材のお問い合わせ SVAIFF KOREA 2026 事務局・メール：help@svaiffkorea.com
SVAIFF KOREA 2026・korea.svaiff.com